

令和5年度 県事研ビジョン「広島風おこのみプラン」進捗状況報告

会員（個人）による回答のまとめ【アンケート回答数：132件】

評価欄:【している】【していない】、評価の期間:令和4年12月～令和5年7月

★「研修」－安定した事務機能の構築・資質向上

- 【実効策】 ①研修の機会等を積極的に活用し、新たに必要とされる知識や技能の習得に取り組みます。
 ②学校事務に関して必要な知識・技能を有し、事務処理等に活かします。
 ③自らの実践や研修成果を積極的に示し、改善に活かします。

3つのワーク	具体的取組	R4～R9年度 具体的取組(詳細)	令和4年度 評価(%)			令和5年度 評価(%)			令和6年度 評価(%)			令和7年度 評価(%)			令和8年度 評価(%)			令和9年度 評価(%)		
			している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答
チームワーク	学校経営スタッフとしての役割を果たす能力を身に付けるための研修に参加	自己の力量・資質の向上を常に考え、課題意識を持って研修に参加する。 【参考:学校事務職員キャリア形成のための研修計画】	88.8	11.2	0.0	95.5	4.5	0.0												
		事務研究大会(広島県公立小中学校事務研究大会等)に参加する。				96.2	3.8													
ネットワーク	市町事務研への参加	実務研修やビジョンに沿った研究を行う。	76.1	23.9	0.0	73.5	26.5	0.0												
フットワーク	共同事務組織等でのOJTによる研修の推進	日常の実践例を共有することにより経験値を高める。	91.8	8.2	0.0	96.2	3.8	0.0												

【分析・考察】

- ①多くの学校事務職員が、自己の資質向上や課題解決について考えながら自ら研修に参加することができている。コロナ禍で研修が開催できないこともあったため、例年に比べて高い数字であると考えられる。
- ②「している」の回答について経験年数別で見ると、5年未満(53%)、5～10年未満(74%)、10～20年未満(75%)、20～30年未満(85%)、30年以上(88%)となっている。経験年数を重ねるにつれて、実務研修やビジョンに沿った研究を行っている傾向にある。5年未満の「している」の割合が低いことの要因として、経験の浅い新人事務職員にとって、実務やビジョンを俯瞰的に捉えづらいことが挙げられる。
- ③共同事務室内での情報交流や事務職員間の日々の連携が積極的に行われていることが肯定的評価が多い要因であると考えられる。共同事務の機会等を活用し協働的に学んでいる姿が伺える。

☆「職務内容」－関係機関との連携・学校事務の改善と標準化

- 【実効策】 ①学校教育目標の達成に向け、担当する校務分掌等について、改善する意識をもって参画します。
 ②新しい発想や方法を積極的に取り入れ、創意工夫しながら事務の改善等に取り組みます。
 ③児童生徒理解のための情報収集を積極的におこなうとともに、職務に活かします。

3つのワーク	具体的取組	R4～R9年度 具体的取組(詳細)	令和4年度 評価(%)			令和5年度 評価(%)			令和6年度 評価(%)			令和7年度 評価(%)			令和8年度 評価(%)			令和9年度 評価(%)		
			している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答
チームワーク	学校間連携	共同事務組織等(※)により、保幼小中高連携に関する必要な情報交換を行い、連携を図る。 ※事務連絡会や事務研等の共同事務室以外の組織・会も含む。	76.9	23.1	0.0	73.5	26.5	0.0												
ネットワーク	事務改善への実践	事務研や共同事務組織等の情報を得ながら、事務改善について取り組む。	97.8	2.2	0.0	99.2	0.8	0.0												
フットワーク	学校経営参画への取組	自らの経験を活かし、学校経営参画に取り組む。	79.9	20.1	0.0	85.6	14.4	0.0												

【分析・考察】

- ①「小中」は共同事務室実施によって普段から連携できているが、「保幼・高」との連携については日々の業務においてあまり重視する必要が無く、連携を図るために時間やリソースを割くことの必要性が無いためと考えられる。
 また、評価者によって「している」「していない」の捉え方が異なるため、具体的な行動例をあげるなどするとより評価しやすいのではないかと考える。
- ②「している」が前年度に引き続き99.2%と高い数値になったことから、事務研への参加や共同事務組織等での業務によって実践的な知識やスキルを獲得でき、そのことが実務上の改善につながることで、事務職員のモチベーション向上にもなっていると考えられる。
- ③昨年度を上回る数値となったことから、現場で自らの経験を活かすための手段や機会が増えつつあることで学校経営参画への意欲が高まっているように思われる。
 今後も取組を持続させるためには、事務職員が学校の課題やニーズを把握し、またそれに対する改善策や取り組みが行われるような機会を提供されることが重要である。

☆「情報収集と発信」－各方面とをつなぐ役割を果たし信頼を得る

【実効策】 ①他の教職員と積極的にコミュニケーションを図るとともに、相談に応じます。
 ②地域住民や保護者・児童生徒等の学校に対する要望等を把握し、教育活動の充実に向けた条件整備に取り組みます。

3つのワーク	具体的取組	R4～R9年度 具体的取組(詳細)	令和4年度 評価(%)			令和5年度 評価(%)			令和6年度 評価(%)			令和7年度 評価(%)			令和8年度 評価(%)			令和9年度 評価(%)		
			している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答
チームワーク	情報提供・収集・意見交換	学校が行う行事や活動について、事務職員がもつ財務・会計・サービス等に関する情報提供や意見交換を積極的に行い、よりよい学校経営に貢献する。	88.1	11.9	0.0	89.4	10.6	0.0												
	個人情報保護につとめる	情報管理の質の向上につとめる。	73.1	26.9	0.0	75	25	0.0												
ネットワーク	職員からの要望・意見を把握	職員からの要求・意見を予算要求・執行計画等に反映させる。	98.5	1.5	0.0	99.2	0.8	0.0												
	地域との連携	地域の人が学校に来た時の対応や連絡の支援をする。 (地域と学校が協働できる環境づくりをする)	87.3	12.7	0.0	89.4	10.6	0.0												
	情報公開	子どもや保護者に関する情報(就学援助や学校行事等)を周知する。または周知の支援をする。	91.8	8.2	0.0	93.2	6.8	0.0												
フットワーク	学校内外の情報や条例規程の改正等の収集と理解	(職員会議や事務だより・回覧等で) 予算執行状況や条例等の改正について職員へ周知徹底する。	88.1	11.9	0.0	90.9	9.1	0.0												
	地教委と連携を取り、教育条件整備につながる予算要求をする。または執行計画を立てる	予算要求等に有効な根拠データを収集し、適正な予算要求をする、または執行計画を立てる。	88.1	11.9	0.0	86.4	13.6	0.0												

【分析・考察】

- ①校内でしっかり連携を取りながら情報共有することで学校運営を円滑に進めることが出来ている。
- ②前年度に比べ「している」と回答した割合が高くなったが、全体数値としてはやや低めである。
紙やファイル等の保管方法からデータでの保管方法へ移行し、扱う情報量が増え、情報管理の質の向上という点では実施ができていないのではないかと。また、情報管理について自分ひとりでは実施することが難しいと考える。小さなこと(例:鍵を付ける、保管方法を全体へ周知する等)としても向上の意識として捉えることが大事である。
- ③職員の意見や学校の状況に応じて予算を執行している。
- ④地域と学校をつなぐ重要な役割を約9割の事務職員が「している」と回答している。
- ⑤保護者へ情報提供するために校内でしっかり連携を取り対応できている。
- ④⑤について具体的取組の詳細を前年度より変更したことで、イメージしやすく前年度より高い数値となった。